

タイトル

授乳期初期における直接母乳授乳と哺乳びん授乳の併用について 第 3 報

石丸あき、斉藤哲

ビジョン株式会社 中央研究所

【目的】

産後早期の直母授乳と人工乳首授乳の併用において、併用率の高低に影響を及ぼしている要因としてミルク穴サイズの重要性を報告してきた。例えばミルク穴が S サイズを超える大きな人工乳首を使用した場合、直母との併用が困難となる可能性があることが分かってきている。本研究では、ミルク穴サイズが S サイズよりもさらに小さいタイプの人工乳首を用いて、新生児期における直母との併用状況を検討した。

【方法】

P 社モニター制度に登録しており、産後早期において、P 社 S サイズ穴乳首（以下、乳首 A）とミルク流出量を S サイズより少なくした乳首（以下、乳首 B）の両乳首保持者 152 名を対象とし、生後 1～4 週間の授乳記録および人工乳首 A/B の使用感に関する質問紙調査を実施した。母親の平均年齢 32.1 歳、児の平均日齢 11.9 日（レンジ 6-26 日）、児の平均出生体重 3035g であった。

【結果と考察】

152 名の授乳状況は、直母のみ：50.0%、併用：46.1%、人工乳首のみ：3.9%であった。併用者の併用理由は、入院時/「病産院からの指導」が最も高く（82.4%）、退院後/「母乳が足りているか心配」が最も高く（82.1%）、退院後の母乳不足感の強さが伺えた。併用者中、乳首 A/B を併用乳首として安定して使用した例は 52 ケースあり、A/B 併用者の 1 回の平均授乳時間は、直母：15min59sec、乳首 A：9min52sec、乳首 B：10min10sec であり、直母が有意に長く、AB 間にほとんど差はなかった。乳首 A/B において、哺乳ペースは、乳首 A：5.9ml/分、乳首 B：5.5ml/分であり、ミルク穴の小さな B において若干ゆっくり飲んでいる様子が示唆された。使用感に関して、平均日齢 12 日の時点では、乳首 A と B の間に大きな違いは見られなかったが、今後、1 ヶ月健診後、3 ヶ月後と、併用の発達的变化についてさらに詳しく検討していく予定である。